



# J A U W

## F U K U O K A

(社) 大学女性協会  
福岡支部会報  
2014.4.27 発行  
-36号-

### 第52回通常総会（福岡）

日時： 4月29日（祝日）  
於： 天神梅の花  
出席： 12名 委任状 8名

- |          |          |
|----------|----------|
| 1. 開会の言葉 | 石田雅子     |
| 2. 支部長挨拶 | 支部長 和栗方子 |
| 3. 事業報告  | 書記 青沼美撫子 |
| 4. 会計報告  | 会計 桑原洋子  |
| 5. 監査報告  | 監査 石田雅子  |

石田会員の司会により、審議事項にはいり、役員承認は従来どおりで、支部長に和栗会員、書記に石蔵会員、青沼会員、会計に桑原会員、会計監査に石田会員、メール担当に相良会員 以上の諸女が全員一致で再任されました。

次に支部長の和栗さんから、「次年度から支部長の役を代わって頂きたい」と要望があり、無記名投票で選ぶことにしました。結果は次回に報告されるでしょう。

事業計画は年1回の他支部の訪問をすること（大分か熊本）軽い気持ちで楽しみましょと和栗さんから提案があり、みな賛成でした。

6月の例会は矢田会員の御主人様の講演をお願いすることで計画されます。詳細はいずれ送られて来ます。

予算について、桑原会員から正確な報告があり、全員一致で承認されました。

以上審議は滞りなく進み、和気藹々のうちに終了いたしました。

役員の方々の1年間のご努力に感謝です。

お食事タイムに入り、乾杯の音頭（松浦）に続き、美味しい日本料理に舌鼓をうち、このときばかりは、難しい議題もすっかり忘れて、「満腹だ、もう入らない」と言いながら完食いたしました。（松浦の感想）

今日の卓話は久しぶりに宮崎から参加の伊藤五恵会員による「最近の活動」という題でお話をして頂きました。陶芸家である彼女の夢は家族で囲む食卓、そこで使われる「ご飯茶わん」でした。今ようやくチャンスが訪れ、宮崎のホテルシェラトンとのコラボが5月26日に実現しようとしています。

リトアニアに招聘されて、40日間向こうで作品の制作と展示をされました。「今日福岡に来たついでに、デパートの現状を観察して、自分の作品を扱ってもらえるよう営業してきます。」と言ってさっそうと福岡の街に出て行かれました。成功を祈ります。（松浦愛子）

## 第2回定時会員総会

2013年5月18日(土) 評議委員会・支部長会

懇親会 高橋美智子客員参加による  
オカリナ演奏

於：名古屋グランドホテル「柏の間」

出席：和栗

5月19日(日) 総会

出席者：141名(委任状501名)

### 第2回定時会員総会に出席して

全国総会は、2013年5月19日(日)名古屋グランドホテルにて開催されました。総会に先立ち18日(土)午後、同じ会場で支部長会が開かれ、福岡支部会報を会長、副会長、理事、支部長の方々へ配布しました。

夜の懇親会では、名古屋流の和食の濃厚なお出汁の味に地方色を感じました。総会の議事抄録は本部発行のJAUW会報249号に詳しく記載されていますのでご覧ください。

総会午前の部の終わりに鷺見八重子さんによる講演「第67回国連第3委員会に出席して」がありました。

ニューヨークの街角に1室を借りて、国連ビルまで地下鉄で通勤され、日本食は何でも入手でき、1ブロックに1軒は和食レストランがあるそうです。想像される通り女性の地位委員会には日本以外は問題を抱えた中、小国の出席者が多かったとか、そんなお話を伺っていると四角く固く遠い存在だった国連が身近に感じられるように思いました。

翌19日は晴天の下、伊勢神宮へのバスツアーにも参加しました。初めてのお伊勢詣りでした。

参道の左右は樹齢何年になるのでしょうか。背の高い樹々の林、その間の道をザクザクと砂利を踏みながら歩き、途中五十鈴川まで下ってせせらぎの音を聞きながら、やわらかな水に手を浸すことが出来ました。

折しも今年は、20年に1度の遷宮の年に当たっており、その運営や周辺の直接間接の仕事に携わる人は数知れず、伊勢神宮を守っていくことはこの辺の一大産業となっていると感じた次第です。



(和栗方子)

## 6月公開講演会

◇ 講演：「地域貢献と大胆な政策により存在感を増す公立大学」 ◇

講師：矢田俊文 氏(元九州大学副学長・前北九州市立大学学長)

日時：6月30日(日)

於：あいにふ8階交流室

出席：会員12名 他6名

今、国公立大学がアツイ。明治の学制々定以来、長い間象牙の塔に籠り、研究一筋に過ごした先生方も、大学が次々法人化されると、如何に優秀な学生を大勢集めて経営を安定させるか、考えねばならなくなった。加えて少子化が定着して受験者総数は減少中である。学生から見た“魅力ある大学づくり”という課題に、先生方は本気で取り組まなければならなくなった。

講師の矢田先生は元九大副学長で、九大の伊都キャンパス移転の中核として推進された方です。そして、御退官後は北九大学長、公立大学協会々長としてご活躍されました。この様に激変する大学中枢部に在籍した方ならではのホットなお話を興味深く拝聴しました。更に今回、体験された諸事情を解説したご本『九州大学改革物語』を出版され、参加者全員が一冊ずつ頂戴しました。有り難うございました。



また、今月の例会は「公開講演会」で、宮崎公立大学々長や北九州副学長他、錚々たる方々が聴講され、いつもとは違う雰囲気の有意義な例会でした。

(西原そめ子)

## 9月例会

### [1] 講演：「世界農業遺産」

講師：篠崎正美 会員

日時：9月22日(日)

於：あいの心8階 研修室(A)

出席：会員7名 他7名

篠崎会員が自ら語られた67歳からの華麗な転身ぶりが興味深く、結論として自分は研究者たりえなかったという総括が面白かった。70歳代で2度退職し、その後、朝倉市在住で何が出来るかを考えた時、6年前にチャレンジ大学を立ち上げ、子育てがしにくいので、子育てホットサロンを起こした。家庭から社会が良くなるように女性の認識を促した。当市の人口が57,000人で、入ってくる人は少なく、出ていく人の多い現状で、雇用も少ない中、若者が総じて市外に流出してしまう。現在、超高齢化が進む市内でその人らしさが尊重される小規模介護施設の開設に向けて準備中である(2014年の4月オープンの予定)とのこと。



また今、農業・農村地域の停滞と自信喪失の中、若者の流出、高齢化の進展(農業従事者平均67歳)、農業所得の低下が著しい中、TPPが成立したら、10年経ったらどうなるかは想像に難くない状況で、農業・農村は要らないのかと言いたくなる。

そこで、農業・農村に夢とプライドを持ってもらいたく、まちづくりチャレンジ大学(6年前に設立)＋山田堰土地改良区＋朝倉市と協働して世界農業遺産登録を目指しているとのこと。

Q&Aで、日本全国において今日、生まれ育った所で幸せになれるのか、定年退職後に農業従事者になったらどうかと思っても「農地法」が阻んでいる。農業高校も統廃合されつつある現在、何をしたらいいのか、生活が十分に出来ない農業後継者たちが手をつなぎながらキッカケを掴んで欲しいものであると述べられた。我々は配布された「筑後川中流域 GIAHS プロジェクト会議体の第1回講演会(8月15日)のまとめ」から筑後川中流域の数々の農業資産(5つの堰、三連水車、堀川、棚田、溜池等)を世界遺産(GIAHS)の登録を目指す協働会議の活動を知り、農業・農村を大切に思う県民になれるようこのプロジェクトに何らかの形で関わっていきたいと思ったし、賛同者が増えることを願ってやまない。

(青沼美撫子)

〔2〕 GIAHS 登録プロジェクト会議体ミニ企画スタディツアー  
「筑後川中流域の溜池と農業、そして生物多様性」

日時：10月27日（日）  
於：筑前町めくばーる  
出席：相良

9月例会の篠崎さんのお話を伺い、「会議体」という言葉に興味を持ちました。広辞苑で「体」を調べますと、「物事がはたらく際、もとなる存在や組織」という語釈があります。「筑後川中流域 GIAHS プロジェクト会議体」は、自分の住む地域を農業・農村を愛し守ろうとする方々が老若男女集い、活発に議論する場なのだろうと思い、農業とはまったく無縁の私ですが、参加してみたくなりました。



そして早速、JAUW 全国セミナーの2日目を欠席し、スタディ・ツアー「筑後川中流域のため池と農業、そして生物多様性」に参加しました。

10月24日9時30分、福岡からJRと路線バスで筑前町に。晴天の中、子どもを含め24名の参加者が集まり、町内会の遠足といった和やかな雰囲気、スタディツアーが始まりました。町役場内の資料室で、沢山の埴輪と農具を見学し、弥生時代の農具が現在の農具の形状とあまり変わらないことに驚きました。

そしてバスに乗り仙道古墳に移動。仙道古墳は、石室の壁や石棺に装飾をほどこした装飾古墳で、出土例の少ない貴重な柵型円筒埴輪であるとのこと。古墳の周りの2重の溝が現世とあの世の境であるとの解説を伺い、三途の川は、2本なのかしらと思っていましたら、3重の周溝をもつ古墳もあるとの説明がありました。

仙道古墳を後にし、最初に訪れた溜池は大きなダムのような牧ノ池。幅4~5メートル程の立派な堤の築造時期は、戦争で壮年男性のいない昭和20年との説明を聞き、男性であっても重労働に違いない溜池作りを女性が行ったと知り、どのような事情で、状況で着手したのか、想像することも出来ず、本当に驚きました。

2番目に見学したのは松延池です。平地にある大きな皿池でホテイアオイらしき浮草が沢山あるモネの睡蓮の絵のような溜め池でした。3番目は、広大な田地の中に横一列に並ぶ4つの溜池。4番目は、ピオトープのような溜め池です。そして最後は笠堤。熊野神社の駐車場から雑木林の中に入り、しばらく歩くと右手に池が見えてきました。堤の奥端の枯葉や木の実で埋もれている溝が、満水位を超える水を逃がす余水吐（よすいばけ）であること、また、余水吐と対角線側（手前池側）にある3つの穴をくり抜いた石材の管が「桶管（ひかん）」であり、穴を塞ぐ丸太の栓を「桶棒（ひぼう）」と言い、この栓を抜いて用水路に水を流すことを知りました。抜く栓の数で水量の調節が出来るようになっていて、先人の知恵に驚きました。ここでも多くの女性が堤体の固め作業に従事していたそうです。



そして、高住神社の社殿内にある椀貸古墳を見学し今回のスタディツアーを終えました。

（相良かおる）

2013年 JAUW 全国セミナー

◇ 男女共同参画社会の形成と教育 ◇

日時：10月26日（土）  
於：ピュアリティまきび（岡山）  
参加者：和栗、加藤、青沼、相良、持松

このセミナーはI部 10月26日（土）、II部 10月27日（日）と2日間にわたって開催されました。I部には福岡支部から和栗方子支部長、報告者の相良かおる会員、発表しましょうと牽引された加藤仁美会員と私の4名で参加。II部には世界農業遺産 GIAHS のスタディツアー参加のために帰福された相良会員に替って倉敷市在住の持松志帆会員が参加され、久しぶりの出会で持松会員の研究生活の近況を聞くことができました。

## 第1日目 開会式後

### I. IFUW イスタンブール総会の報告

### II. 委員会報告

### III. 支部報告

があり、岡山支部の報告に続いて福岡支部の報告「孫世代、子ども世代の女子教育について」を相良会員が資料、文献を駆使して、スライドを使い、分かり易い語り口で大変好評でした。

2回の勉強会で分かった

- ① 女子大学と共学大学の違い
- ② 女子教育の内容が世代によって違うこと
- ③ 我々の世代が持つ性別役割分業意識と今の社会が求める性別役割分業意識に違いがあること

を踏まえ、今、我々の出来ることは、自分の受けた教育、自分の持つ性別役割分業観を認識した上で、孫や娘の話に耳を傾け、対話し、理解し、共に考え、学ぶことが大切と強調されたことが共感を呼んだものと思いました。 (青沼美撫子)

### IV. 交流会

#### 望外の楽しい時

親睦会の席で三船文章氏によるチェロ演奏がありました。その後、御自宅へお招き頂き、希望者 20 余名で訪問しました。

コンクリート打ち放しの4つの円筒型の建物が廊下でつながっています。その一棟に入るとアンティークなグランドピアノ2台（内1台はクララ・シューマンのピアノだったそうです）。壁には父上によるシュールな絵画が配置良く飾られた美術館でした。

そんな楽しいオプション付きの会となりました。

折しも翌日の講演は大原美術館々長 大原謙一郎氏による「文化の力を考え直す」でした。

(和栗方子)



## 第2日目

### I. 講演「文化の力を考え直す」 大原謙一郎氏（公益財団法人 大原美術館理事長）

### II. パネルディスカッション

- 岡山大学における男女共同参画への取り組み
- クリエイティブ人材の育成
- 女性の資質を活かす教育体制について思うこと
- 質疑応答まとめ

### III. 全体のまとめ

#### IV. 閉会

##### 所感その1

私は大原謙一郎氏の講演を聞く前に10月25日（金）小雨降る中、倉敷を訪れ大原美術館、児島虎次郎記念館を観て来ました。その上でお話が聴けたのは幸いでした。スライドに映し出される絵画陶器等が、どこにどういう風に展示されていたかがすぐに分かりましたから。

文化が芸術に役に立とうと立つまいとそれ自体が貴く、万能ではないが無力でもない、いろんな人に語りかけているので、私は「文化の力の伝道師」と言いきられ、出生、育ち、受けられた教育の素晴らしさを語られ、その後赫たる経歴の持ち主として、錚々たる人物になられ、環境とは言え、いつも文化、芸術のことを考えられ、国の立ち位置を決めるのは文化、世界の融和をさせるのも文化と言われたのも当然だと思いました。子どもに「よりよき社会のよき市民でありなさい。その中で最大限の自己実現をしなさい」と教えるのが教育ですと教育の現場にも踏み込まれ、全国各地の「ゲネオス・ロキ（地域の神様）」たちこそがこの国をクリエイトしているので土地の神様が産み出した人々に耳を傾けねばならないと具体的にビジネスの世界の例を挙げられ、氏の地方の論理が「地方分権」であり、それが国のことを地方が決めることであり、そうしていかないと世界に伍していけない。そのためにも流水漂う北の海から黒潮躍る南の島まで多様多彩な文化の力を大事にし、「私は大原美術館を一生懸命やっています。全国いろんな所で共鳴者が増えれば嬉しい」と結ばれ、とても感銘を受けました。

（青沼美撫子）

##### 所感その2

私は、2013年4月から岡山の倉敷市に拠点を移し、教育研究活動が続けることになりましたが、福岡支部皆様のご配慮をいただき、引き続き当支部に所属させていただいています。この度、丁度、岡山で全国セミナーが開催されるということでお誘いいただき、私は第Ⅱ部から参加させていただきました。

公益財団法人大原美術館理事長大原謙一郎氏の「文化の力」を考え直す」についての講演では、文化・芸術は万能であるとはいえないが、大きな影響力を持っていること、さらに、文化・芸術だけでなくビジネス、テクノロジーの分野においても、クリエイティブな発想を持ち、先駆者といわれるような人は、全国各地の「ゲネオス（ゲニウス）・ロキ」すなわち“地方の魂”たちであるとの主張を大変興味深く拝聴させていただきました。倉敷の高校生が、歴史ある地元の街を通して、社会とのかかわりの中から、自分たちはどう生きていくべきなのか、すなわち“新しい公共”という視点で内発的に取り組んでいる例も紹介されました。これからの日本を支えていく若人たちに、文化の側面からクリエイティブ人材を育成する積極的な試みも非常に価値あるものであると感じました。また、本当のビジネスクリエイターというのは文化・芸術に精通しているスーパー教養人でもあるということについても納得させられるものがありました。

一方、岡山大学における男女共同参画の多様な取り組み（WTT ウーマン・テニユア・トラック事業、次世代女性研究者の育成、研究サポート体制の整備など）が紹介されました。取り組みの形骸化が多くみられる中で、組織上層部の意識改革をはかるなど、確実な実践に結びつけ、その成果を追求するといった施策の一貫性が感じられました。

最後は、女性の資質を活かす教育体制に関する講演でした。女性の思考はネットワーク型（要素集合型）であると分析されており、このような性差による特徴に注目して女性の活躍を期待すべきであり、女性研究者支援の在り方なども新たな視点から（初等教育段階からの意識改革の必要性）の提案がなされました。

日本経済新聞でも、2013年5月から、女子の活躍を支援するプロジェクトをスタートさせているように、男女共同参画社会の形成は社会的にも大きな注目課題となっていますので、性差による男女の特色を認めれば、社会にもさらに何か新しい展開の可能性があるのでないかと思いました。

大学教員である私は、当事者感覚で講演を拝聴することができ、大変有意義な時間を過ごさせていただきました。（持松志帆）

## 11月例会

### 秋の一日ツアー

#### 「太宰府天満宮と秋の自然に親しむ」

日時：11月24日（日）

於：太宰府天満宮、光明禅寺

参加者：8名



好天に恵まれた11月24日（日）太宰府天満宮と光明禅寺を訪れました。天満宮を訪れることになりご案内を宮司夫人、西高辻様をお願いしましたところ、お忙しい中、快く引き受けて下さいました。

当日は太宰府駅に集合し、参拝客で賑わう参道を通り抜けた鳥居で西高辻様と待ち合わせ、そこからはご説明をお聞きしながらいつもは気づかずに通り過ぎていたところを改めて拝見す

ることができました。太鼓橋のたもとにある志賀社は室町中期に当時の建築技術の粋を集め建てられたもので、現在重要文化財になっています。又本殿も細部にわたりすばらしい装飾が施され、中国故事「登竜門」にちなんだ人と鯉の彫刻なども印象的でした。参拝のあと社務所で元祖梅ヶ枝餅とお茶をご馳走になり、清々しい気持ちで天満宮をあとにしました。昼食後、近くの光明禅寺に立ち寄り紅葉を満喫しました。絶好の行楽日和の1日で、希望者は九州国立博物館の「徳川家の至宝展」を観に行かれました。



（加藤志鈴子）

## 新年会

### ◇ 新年会とミニバザー ◇

日時：1月25日（日）

於：ホテルニューオータニ博多

地下1階レストランカステリアルーム

出席：9名

#### ハッピーな新年会

2014年1月25日、新年会がレストランカステリアルームにて9名の参加者で行われました。

#### I部 卓話

新入会員の豊福美代会員が、自己紹介という形でざっくばらんにお話をして下さいました。

手に職をもって自立出来る女性になるようにとの御母上様のご指導に承えて、大学卒業後ご就職、ご結婚後も3人のお子様をお育てになり乍ら、ずっとお仕事を続けてこられました。

初めの中は「社会に貢献する、しなければ」という気負いをお持ちだったとか、或る時から「自分の食い扶持は自分が稼ぐ」という風に考えを改めた由で、「気が楽になった」とおっしゃいました。私に

はとても納得のいくお言葉でした。

現在ほどは支援体制の整っていない時代に定年迄、きっちりお勤めになるのには並々ならぬご苦労がお有りだったことと推察するのですが、理解あるご夫君に恵まれ、育児も楽しんでなさった御様子で、伺う私達もとてもハッピーな気持ちになりました。ご退職後もあれこれと活動的に過ごして、現在は北京 JAC 福岡の事務局に在籍なさっていらっしゃいます。

3月30日にもう1度、男女共同参画などについて一步突っ込んだお話をさせて頂く事が決まりましたので、今から楽しみにしている所です。

## II部 会食

梅居様のお口利きで、落ち着いた雰囲気個室をご用意頂きました。

お料理は美味な上、盛り合わせ方、彩りのセンス抜群で、口福、眼福共に堪能致しました。

## III部 バザー

買い手にとっては非常に嬉しい格安で、手作り品、遊休品が沢山有り、思わずニコニコ顔になってしまいました。楽しい会をお世話下さいました皆様に感謝してペンを置きます。

(榎谷紀子)

## 会員だより

2014年2月15日土曜日、第7回の「ひむかかると競技大会」が開催されました。宮崎の歴史、文化、観光のほか、さまざまな分野を幅広く取り組んで出来ているのが「ひむかかると」です。クラブ活動を通じて取り組んでいる園児30名、児童150名が団体、個人戦に分かれて、日頃の練習の成果を競うものです。

この日をめざして、練習してきた子ども達の白熱した戦いは、保護者たちに留まらず、見る者に感動を与えます。

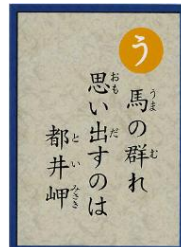
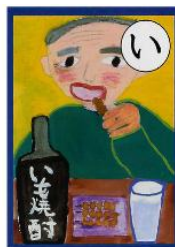
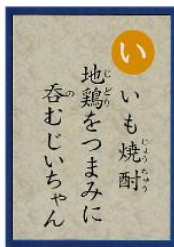
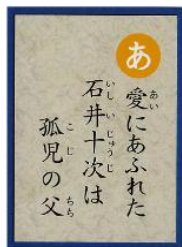
「ひむかかると」とは、宮崎市内の小学生、幼稚園児と宮崎公立大学とのコラボレーションです。

2005年公立大学、地域研究センターがかかるたの素材を県内の小学生から募集し約3,000作品があつまりました。その中からよりすぐりの作品だけで出来上がった宮崎ならではの「かると」です。



2007年にかるとは完成し、翌2008年2月23日に第1回「ひむかかると競技大会」が開催されました。この大会で中心的なスタッフを勤めたのは、かるとの制作者である「宮崎中央ロータリークラブ」と公立大学荒井教授のゼミ生たちでした。

私の属する宮崎ロータリークラブは、最初の立ち上げから普及に深く関わってきました。毎年多数のメンバーが審判や表彰など大会の運営をサポートしています。



(松浦愛子)



## 3月例会

**講演：「経済的自立の視点からライフキャリアを考える」** 日時：3月30日（日）  
於：あいち交流室  
**講師：豊福 美代 会員** 出席：5名

1900年後半、戦後の日本は大きく変わり、三種の神器の時代から高度成長期と、社会の変化に伴い、生活、特に女性のライフスタイルは大きく変わった。

そして現在、天災・少子化高齢化に伴う、生産の担い手の減少、雇用の不安定化等々、社会不安の世相を背景に、どの世代の人も、男性も女性も、自分の人生は主体的に自分で考え、行動することが必要であり、自分のライフプランを作ることが結局自分の納得する人生を送れることであり、その中で女性が自立した経済力を持つということが有意義であり自分自身のためである。というお話しでした。

この講演の中で特に印象に残ったことが2つありました。一つ目は現在公立の高等学校で使われている「家庭科」の教科書です。第1期世代のサシスセソ（裁縫、始末、炊事、洗濯、掃除）と異なり、まさに「ライフキャリア」の教本であったということです。第5期世代の人達はこの教科書で教育を受けて育つのですね。

感銘を受けたもう一つは、講演の終わりにご自身のライフキャリアを図示されたことです。「家庭生活」も「社会生活」も見事に両立された方だと思っておりましたが、そのためには、強い覚悟と、時に応じ問題の打開のための賢明な対処等、長い努力の道のりがあったことを知り感銘を受けました。

（石蔵幸代）



**見学：小規模多機能施設「ぬくもりの家」訪問記** 日時：4月1日（火）  
**案内：篠崎正美 会員** 於：ぬくもりの家  
出席：3名

9月例会にご講演頂いた篠崎正美会員が地元朝倉市に創設された小規模多機能型居宅介護施設「ぬくもりの家」がいよいよ4月1日にオープンしました。丁度その記念すべき日に、大学女性協会福岡支部の見学会が実現し、青沼さん、相良さん、私の3人で訪問致しました。この施設の訪問を誰よりも熱望され、綿密な企画をして下さった肝心の支部長の和栗さんは、のっぴきならないご事情で残念ながらご一緒出来ませんでした。

さて、朝倉インターに出迎えを受けて、先ず篠崎さんのお宅（婚家）の造り酒屋を見学し、美味しい甘酒をご馳走になって、朝倉市田中にある「ぬくもりの家」を訪問しました。新築のこじんまりした施設で、全体はT字型プランです。玄関を入ると南面に出窓を配した明るい食堂があり、中廊下の両サイドに厨房、浴室、トイレ、そして奥に個室群が配置されています。バリアフリーは勿論、2つの浴室には利き手を考えて左右対称に浴槽を設置するなど、随所に女性らしい気配りが感じられました。

「ぬくもりの家」の方針は、住み慣れた自宅や地域で出来るだけ長く暮らせるようにと、「通い」を軸足に、「訪問」と「宿泊」を組み合わせた施設です。利用者は朝倉市在住者に限られ、年中無休で、昼間の通い9時～17時、夜間の泊まり17時～9時と、24時間何時でも安心して頼れます。ここで働くスタッフも地元の方達で、利用者との絆が深い上、地元雇用の創出にも大いに役立っています。興味深いのは、この施設がNPO法人などでなく、有限会社として設立され、出資者が協働経営するス

タイトルになっている点です。長年大学や研究機関で社会学分野の教育研究に携わってこられた篠崎さんの新たな女性企業家としての見事な転身とバイタリティに感嘆し、この施設が郷土愛にあふれる地域の核となって利活用されている姿を支部の皆さんとまた見に来たいと思いました。

お昼はお祝いの昼食会におよばれして、篠崎さんやお友達、スタッフの皆さんと歓談出来ました。

帰りには由緒ある患蘇八幡宮の宮司の上原さんに八幡宮と木の丸殿、そして筑後川の水利施設として著名な山田堰に案内して頂き、帰途に着きました。

盛り沢山の、充実した楽しい見学会になりましたことに感謝致します。



(加藤仁美)

#### <新入会員紹介>

田部井世志子 会員      お茶の水女子大学

城崎由紀 会員      岡山大学

お二人を新会員にお迎えできて大変嬉しいです。会員の皆さま、宜しくお願い致します。

---

---

#### 大学女性協会（JAUW：Japanese Association of University Women）

1946年に創設され、1954年に国際大学女性連盟（IFUW：1919年創立）に加盟。

2012年に一般社団法人となり、IFUWと協働しながら女性の地位向上を目指す、公益活動を行う非政府組織（NGO：Non-Government Organization）です。奨学金事業、女性リーダーの育成、国内外の諸問題に対する唱道活動など多様な事業を展開しています。

##### 会費

入会金 1,000円（正会員のみ）

年会費 正会員 7,000円（IFUW年会費を含む）

賛助会員 6,000円

福岡支部は、1947年に設立され、支部会費は2,000円です。

#### 国際大学女性連盟（IFUW：International Federation of University Women）

世界61カ国の大学卒業女性による国際非営利、非政府団体です。

本部はジュネーブにおかれ、3年ごとに加盟国各国回り持ちで総会が開かれます。

以下の目的を達成するために、各国でさまざまな状況に応じて活発な活動を展開しています。また、国連諸機関に代表チームを派遣し、世界の重要な問題に対して直接発言をしています。

##### 目的

1. 女性の生涯にわたる教育を推進する
2. 国際協力、友情、平和と人権を推進する
3. 女性の地位の向上を擁護し、支持する
4. 公的および私的な生活でのリーダーシップと意思決定において、女性がその知識と技術を活用することを奨励する